

* 堂平観測所、木曾観測所時代の全天カメラフィルムを収蔵

堂平観測所は、1962年の建設当時は空も暗く、微光天体の観測も出来、夜光観測グループが全天カメラを設置していた。堂平観測所の空が明るくなり、その全天カメラは1974年に開設された木曾観測所へと移されていった。この間、1968年から1990年の間に撮影された全天カメラのフィルムが蓄積されていた。2009年3月末にこの観測に当たっていた宮下暁彦氏が定年退職されるため、これらのフィルムが天文情報センター・アーカイブ室に託された。このフィルムの観測データは流星研究者でもある渡部潤一氏とともに論文として出版されることになったそうです。

アーカイブされる全天カメラで撮影されたネガカバーに整理されたフィルム(写真1)が、火球・流星記録として22冊のアルバムになっている。



写真1 1969年～1990年の火球・流星写真フィルム

堂平観測所分が、

- ① 1969年1月～1971年12月、
- ② 1971年12月～1974年1月、
- ③ 1974年10月～1975年2月、

木曾観測所分が

- ①1977年3月～1978年2月、
- ②1979年1月～1979年11月
- ③1980年4月～1981年11月、
- ④1981年11月～1982年12月
- ⑤1983年3月～1983年12月、
- ⑥1983年12月～1984年11月
- ⑦1984年11月～1985年10月、
- ⑧1985年10月～1986年2月
- ⑨1986年2月～1986年9月、
- ⑩1986年10月～1986年12月
- ⑪1987年1月～1987年6月、
- ⑫1987年7月～1987年12月
- ⑬1987年12月～1988年4月、
- ⑭1988年4月～1988年10月
- ⑮1988年10月～1988年12月、
- ⑯1988年12月～1989年4月
- ⑰1989年4月～1989年10月、
- ⑱1989年10月～1990年1月
- ⑲1990年1月～1992年

全天カメラで撮影されたフィルムのうち、火球・流星が認められない（と思われる）フィルムは、ネガカバーに入っていない状態で丸められた35mmフィルムとして、

堂平観測所分が、1968年～1975年分

木曾観測所分が、1976年～1990年分までである。

これらは、丸められた状態で1年分ずつ箱に収められている（写真2）。



写真2 1年分ずつ箱に収められた全天カメラで撮影されたフィルム